

平成22年度 第8回 (11月) 理事会議事録

- 日 時 平成22年11月11日(木) 午後6時30分～9時20分
- 会 場 社団法人大阪府臨床検査技師会事務所
- 出席者 今井、運天、竹浦、吉本、高田、大垣、清水、
荒木、田畑、井戸田、出野、山田、宮野、酒井、
栗本、山西、杉山、増田、栗本監事、
山中監事、事務(岩崎)
- 欠席者 なし
- 議 長 今井

【 討 議 内 容 】

I. 行動報告 (10月分)

- 10月2日 会員交流会
運天、田畑、出野、栗本
- 2日 大阪医療技術学園専門学校病院実習報告会
今井
- 5日 第3回合同フォーラム委員会
清水
- 5日 大阪府衛生検査所精度管理調査会議
運天
- 8日 公益法人協会相談会
今井、運天
- 11日 豊中市体育の日イベント
「チャレンジだスポーツだ」
清水
- 12日 学術部会
高田、宮野、山西
- 12日 マタニティカーニバル2011 実行委員会
テレビ大阪
栗本
- 14日 理事会
今井、運天、竹浦、吉本、高田、大垣、
清水、荒木、田畑、井戸田、出野、
山田、宮野、酒井、栗本、山西、杉山、
増田、栗本監事、山中監事
- 15日 情報組織部臨時部会
山西
- 16日 近臨技会長会議
今井
- 16日 近畿臨床検査技師会・日臨技地区連絡会議
今井、運天、竹浦、高田、荒木
- 16日 近畿臨床検査技師会OB会
今井、運天、竹浦、荒木
- 16日 第1回乳がん検診フォーラム
清水、栗本
- 17日 近臨技会長・事務局長会議
今井、運天
- 17日 標準化サーベイサンプル作製(市大病院)
山西
- 19日 渉外部会
清水
- 20日 総務・会計部会
運天、吉本、荒木、山田、酒井、杉山
- 21日 地区事業部会
田畑、出野、栗本
- 21日 情報組織部会
運天、竹浦、井戸田、酒井、山西、杉山
- 21日 佐藤クリニック
竹浦
- 22日 堺市衛生検査所精度管理調査
田畑、酒井
- 23日 北支部自由集會
田畑、栗本
- 23日 JAMTIS打合せ会
吉本
- 23日 財務管理研修会
運天、井戸田、酒井、山西

- 24日 財務管理研修会
井戸田、酒井
- 27日 関西ホスピタルショー開会式
今井
- 27日 常務理事会
今井、運天、竹浦、吉本、高田、荒木
- 28日 堺市衛生検査所精度管理調査
田畑、酒井
- 30日 第6回 府民健康フォーラム
今井、運天、吉本、高田、荒木、大垣、
清水、山田、
- 30日 平成22年度第1回大阪府地域医療推進協
議会
今井、運天、吉本、高田、荒木

II. 経過報告

1. 日臨技
特になし。
2. 近臨技
 - 10月16日に会長会議・理事会・地区連絡会議・OB
会を開催した。
会長会議
会員管理システム、賠償責任保険に関する情報交
換を行った。
 - 理事会
日臨技、各府県、委員会、部会報告、地区学会進
捗状況(味覚・臭気検査の教育講演会)報告と①
JAMTISを利用した会員システム②近畿圏内相互
の会員交流③地臨技独自の保険の構築④近畿地区
技師会(協議会)の存続⑤近臨技学会の同時開催
のあり方と三団体協議会の存続について協議した
その結果、①はベンディング②④⑤は承認、③は
紹介ということで承認された。
 - 地区連絡会議
近畿地区日臨技役員から所属部署に関する日臨技
報告があった。今回から理事会と地区連絡会議に
名誉会員もオブサーバとして参加することになっ
た。
 - 10月17日に会長・事務局長会議を開催した。
会員管理システム、賠償責任保険についてより詳細な
情報交換をした。本会議を11月13日大臨技事務所
で継続審議を行うこととした。
3. 事務局
 - 〈総務部〉
10月20日に部会を開催した。
 - 新制度法人への対応について検討した。
 - 日臨技新体制への対応について検討した。
 - 大臨技ニュース用メーリングリストについて検討し
た。
 - 大臨技ニュース10月号を発行した。
 - 大臨技ホームページを更新した。
 - 〈会計部〉
10月20日に部会を開催した。
 - 9月度収支決算書を作成した。
 - 日臨技へ9月分会費の送金を行った。
 - 〈渉外部〉
10月19日に部会を開催した。
 - 第3回合同フォーラム委員会について討議を行った。
 - 第4回委員会12月7日(火)開催 別紙資料あり
 - 乳がん検診フォーラムの反省を行った。
 - 手話講習会および講演会について討議を行った。別紙
資料あり
 - 10月30日開催の第6回府民健康フォーラムの準備を
行った。
 - その他

4.事業局

〈情報組織部〉

10月21日に部会を開催した。

- 日臨技総合管理部門研修会の最終打ち合わせを行った。
 - アンケート調査の内容について確認と検討をした。
 - 平成23年 2月19日開催予定の技師長会について検討した。
 - 来年度事業について検討した。
 - チーム医療部門の糖尿病療養指導部会が10月13日開催され40名の参加があった。
- 〈地区事業部〉
- 10月21日に部会を開催した。
- 会員交流会に関して：反省会を行った。参加人数27名。
 - 施設連絡者会について11月22日（土）開催予定。
- ①大臨技報告（今後の方向性等）②（案）ワクチンに関して
- 10月23日の第28回北支部自由集会の参加人数は、79名。
- 〈学術部〉
- 10月12日に部会を開催した。
- 来年度からの学術部事業に関して議論した。
 - 来年度からの会費納入等に関して変更点を報告した。

Ⅲ.他、報告

1.渉外部から公益事業報告（清水理事）

- ①10月16日開催された乳がん検診フォーラムの参加者は、府民30名を含め102名だった。朝日新聞に掲載記事が掲載された。
 - ②10月30日開催された府民健康フォーラムの参加者は、薬剤師会107名、検査技師会25名、栄養士会85名、一般80名、計297名と大盛況であった。
 - ③12月18日開催される手話講演会の参加者が少ないため、事前に11月中に研修会を3回行う予定であり、1回目の当研修会の参加者は25名だった。
 - ④平成23年1月15日開催される大臨技・大放技合同フォーラム準備状況の報告として、後援依頼承諾書が、10月12日に大阪府から、10月24日に大阪市から届いた。11月17日に演者と最終打ち合わせを行う。レジメは150部作成することとした。
- 献血活動に関して、従来からの活動拠点であった難波グリーンガーデンが、難波に献血ルームが開設されたため利用できなくなった。このため、難波グリーンガーデンが今後も利用出来るよう交渉を行うが、利用不可な場合は、他の場所での協力をお願いすることとなる。
 - エイズキャンペーンのチラシ500枚が日臨技から届いた。例年通り手話講演会の開催日（12月18日）に当チラシを谷町6丁目にて配布する予定である。当日の道路使用許可を運天副会長に依頼することとした。

2.OB・理事会合同忘年会について（今井会長）

当初、大臨技OB会と理事会との合同忘年会を企画していたが、大臨技OB会から個別開催を希望されたため中止することとなった。大臨技の忘年会は、予定どおり12月理事会終了後に行う。

3.その他

- 日臨技精度保証施設認証制度について、11月2日大臨技事務所でパイロット認証の打ち合わせを行った。9基幹施設中7施設が申請することとなった。12月から行われる一般認証審査には、杉山理事と井戸田理事にも委員として参加してもらう予定である。

Ⅳ.議題

1.大臨技の方向性 公益・一般社団法人の選択（運天副会長）

- 運天副会長から10月理事会から継続審議の資料として大阪府に申請した書類の一部を紹介し、事業内容の

見直しを提案するとともに、出席者全員に意見を求め賛否を確認した。

- 出野理事からは資料「新公益法人制度における学術団体のあり方（日本学術会議編）」にも記載されているように、学術団体として大臨技も公益法人を目指すべきとの意見があった。
- （以下、意見）
- 当会からの情報を、社会に向け発信する上では公益を取るのがベスト。学術事業を縮小する前に事業の公益性をアピールする事も必要ではないか。
 - 渉外部事業と学術部事業を組み合わせて、公益性のある事業を企画してはどうか。
 - 近臨技と協力して公益性のある事業や基礎的学術研修等の共益事業を企画してはどうか。
 - 他団体、他職種と一緒に勉強する事業を推進してはどうか。
 - 現行の事業の中で公開講座に切り替えが可能なものがないか検討する。
 - 各事業の縮小と見直しをする事も、一つの選択肢である。
 - 学術部としては、事業担当者の意見も確認したい。方向性は、事業担当ではなく理事会で決めるべきである。
 - 当会主催のセミナーとか講演会は、公益性があるのではないか。
 - 公益法人化をすすめるためのリスクを犯さないほうが良いのではないか。
 - 会員のための団体としては学術事業のやり方と予算編成方法を拘束する変更は、よくないのではないか。
 - 現状の事業内容を変えずに認定してもらえることは出来ないか。
 - 事業内容が重複している部分を統合してはどうか。
 - 学術部には、公益取得を重要視することにより会員離れの可能性もあるという意見もある。会員の学術情報の取得低下にならないようにしたい。
 - 公益性を主張するために申請書類中の文章を、一般的に理解できる文章に変更する必要があるのではないか。
 - 今後、公益法人を取得するためには、大変な労力が必要となるため、各部が協力することが必要である。
- 理事会の結論として
- 大臨技としては、公益法人を目指すこととなった。今後の計画として、予算の見直しを行い以下のスケジュールで遂行する。
- 各部で予算書作成し、12月理事会に提出、12月常務理事会で検討、各部会で再検討、1月の理事会に再提出後承認を得る、2月の初旬（大臨技ニュース3月号原稿締め切り）に原稿提出、大臨技ニュース3月に「平成23年度予算案」掲載
- 予算書は、会計部から各部にフォーマットを送り、直接入力してもらうこととする。

2.会員管理システムについて（吉本常務理事）

- 使用ソフトは、エッチ・アンド・ティー社の「レンタル版都道府県技師会事務処理システム」とする。
- 現JAMTISは、「会員管理システム」内の会員データを基に、「生涯教育システム」および「学会支援システム」が連動し稼働している。このため、生涯教育管理（行事登録・変更・参照、履修点数管理 など）、学会管理（学会申請、演題割付、参加登録 など）は、現・JAMTISの会員管理データと常に連動させる必要がある。
- 上記のことを踏まえ、大臨技の方針としては、当面、現JAMTISを使用し、「レンタル版都道府県技師会事務処理システム」にデータを移行し使用する。
- 「レンタル版都道府県技師会事務処理システム」は、「大臨技臨床検査技師賠償責任保険」データにも対応可能である。
- 「レンタル版都道府県技師会事務処理システム」期導入費用として、事務所に新規設置するPCを含め、初

年度は約 37 万である。

- 11月13日開催予定の「近臨技会長・事務局長会議」に、エッチ・アンド・ティー社から責任者の松原氏および当システム担当者に参加してもらい提案することとなっている。

3.近畿ブロック協議会（仮称）について（今井会長）

11月13日に近臨技会長・事務局長会議が開催される前に、大臨技としての意見を問うた。

- 近臨技会長の富永氏より、日臨技の支部とは別に今後も近畿ブロック協議会を存続したい意向を伝えてきた。
- 検討事項として、現行の近臨技を解散する前には、2府5県へ近臨技会員会費を返納しなければならないが、新たに協議会を存続するための運営資金をどうするか考えなければならない。
- 大臨技としては、学会運営に関しては保留とし、連絡協議会形式の存続については問題ないという意見であった。

4.その他

- 平成23年度「会費」および「賠償責任保険料」納入案内の確認を行い、理事会で承認した。
- 会費納入案内一式と賠償責任保険申込書類一式は大臨技12月のニュース12月号とともに送付する。
- 大臨技ニュース12月号の校正を確認し訂正を加えた。
- 第17回日本心臓リハビリテーション学会からの後援依頼を承認した。
- 大臨技事業の同日開催重複を避けるための案を総務部会で検討し、12月理事会に提出することとした。
- 大臨技ニュースの紙面割付について、レイアウトを変更しないで欲しいとの苦情に対し、山田理事より紙面の大きさ、記事の量によって変更は避けられないと伝達したとの報告があった。